輝け 未来へ 中番校

No one will be left behind

NLP 終了。子供達は全員、よく頑張りました！

－Change（変革）,Challenge（挑戦）,Continue（継続）－

先週、NLP が終了しました。子供達は本当によく頑張ってくれました。私も普段話すことがなかった児童とも話すことができて大変嬉しく思いました。取り組みながら、色々なことが分かってきました。例えば、高学年であっても低学年の問題を間違うことがあること、でも、今の学年よりも上の学年の学習が十分できること、「よし！やるぞ！」と決めたら、例え一日でも、分厚い問題集をやってしまうという凄いパワーがあるということ、そういえば、NLP で問題集を配布した次の日に「できました！」と言って持ってきてくれた子供は、１年生の児童でした。そして、**問題集の提出を重ねると、子供達の様子が変わっていきました。格段に記載する字が丁寧になり、間違いを直す字がしっかりとしてきました。「答え」について、細かなところまできちんと確認し、句点「。」や読点「、」の付け方や記号表示の１と①、アとㇷの区別ができるようになりました。さらに、自分がどこをどのように間違っていたのかを認識できるようになっていきました。**こんなことを言うと、「何をテスト勉強のテクニックみたいなことを、あまり意味がないのでは･･･。」と思われる方もおられるかもしれないですね。しかし、そうでしょうか。算数の「答え」で「○が、□個多い。」と答えなければならないところを、「□」や「□個」と答えてしまうことがあります。**「問われたことに正しく答える」ことは、実は難しいことです。**答えを見た時、「あっ!?」て気付きます。当然、自分はそういう意味で書いています。只、その時「だからいいか。」と自分を納得させてしまう子供がいます。それでよいのでしょうか。記載が無いのに、その意味は相手に通じるでしょうか。そのことを理解しない相手が悪い？流石にそれは考えすぎだとは思いますが、誤解を生む可能性が高いことは明らかだと思います。**何より、このような細かなところに気が付き、配慮ができる力が大切なこと**ではないかと考えます。また、こんなこともありました。実は、最後の日（11 月 12 日）まで、合格すれば、新しい問題集を子供達に渡していました。期限であるその日の内に、学校にいる残りの何時間かで、新しい問題集を終えることは、相当難しいことであることは明らかです。問題集を手渡した時、子供は何て答えたと、保護者の皆様は思われますか。その子は、**「頑張ります。ありがとうございます。」**と言ってくれました。さらに、子供の中には、**「期間を延ばしてください。」、「期間が終わっても続けるから、問題集をください。してもいいですか。」**と言ってくれる子供がいます。勿論、全ての子供がそのような思いになることは難しいだろうとは容易に想像できます。しかし、子供達の中にそのような思いをしてくれた、そのようなことを考えてくれた子供がいることは、大変、嬉しく、頼もしく思いました。「こんな問題集、意味あるの？」「どうして、下の学年の問題集？」「何も考えず、答えを見て、答えを写すだけじゃないの？」、このようなことを思われた、考えられた方もおられたのではないでしょうか。この **NLP で身に付けられる４つの力は、①学校の学習がもっと楽しくなる「知識」②一人でも学習できる「学習習慣」③最後までやり通せたという「自信」④新しい学びへの「知的好奇心」でした。**残念ながら全員達成とはなりませんでしたが、その中で、子供達のキラキラした**凄い**パワーを見ることができました。回数を重ねた結果、その変化は劇的、**流石**でした。自分の目標に向かい最後まで諦めず努力した子供達は本当に**素晴らしい**、その一言に尽きます。

この NLP の陰には、**保護者の皆様のあたたかいご支援とご協力、言葉掛けがあったことは間違いありません。そのことに深く感謝申し上げるとともに今後とも中番小学校の様々な取組、教育活動に力強いご声援並びに応援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。**中番小学校は、子供達、保護者の皆様、地域の皆様と共に歩んでいきます。

学校通信　No.５４　令和３年１１月１５日　小野市立中番小学校長　田中康善